

咸臨丸終焉140年まちづくり事業 実施計画



1. 組織構成

1. 名称 咸臨丸終焉140年まちづくり事業実行委員会（平成23年3月8日発足）
2. 構成 木古内町観光協会（全役員）・木古内商工会（全役員）
咸臨丸とサラキ岬に夢みる会（全役員）・木古内商工会女性部（2名）
木古内商工会青年部（2名）・木古内中学校（2名）
木古内高等学校（2名）・個人（10名）・木古内町（3名）計63名
3. 役員
顧問（若干名） 大森伊佐緒・合田一道
委員長(1名) 久保義則
副委員長(若干名) 東出文雄・木元 護・北島孝雄・手塚通隆・
舛野信夫
部長(式典部・サミット部・懇親会部・朗読部) 後日選任
事務局長(1名) 多田賢淳
事務局員(若干名) 伊藤光雄・工藤嗣美・平野有志・松村信子・
竹田光伸・広瀬雅一・藤谷晃章・竹村照清・
工藤 聖
4. 規約 別紙
5. 事務局 木古内町観光協会内
〒049-0422 北海道上磯郡木古内町字本町217-3 商工会内
01392-2-2046 FAX01392-2-3411
E-mail kikonai-hoikuen@k9.dion.ne.jp
URL <http://kikonai-kankou.com>

2. 事業計画

1) 目的・趣旨

咸臨丸は、開国の嵐に揺れる江戸幕府の意によって、1857(安政4)年にオランダのキンデルダイクで建造されました。

1860(安政7)年、木村摂津守喜毅、勝海舟、福沢諭吉、ジョン万次郎など百余名を乗せ、日米修好通商条約批准書交換を目的とした幕府遣米使節護衛の随伴艦として太平洋を渡る偉業をなし遂げるなど、幕末の動乱期に日本近代化の歴史的象徴として活躍しました。

しかし、晩年は時代変革の渦に巻き込まれ、軍艦から北海道への物資運搬船となり数奇な運命をたどります。戊辰戦争で敗れ北海道移住を余儀なくされた仙台藩白石片倉小十郎家臣団を乗せた咸臨丸は、箱館経由で小樽に向かう途中、1871(明治4)年9月20日、木古内町サラキ岬沖で座礁沈没し、今も静かに眠っています。



咸臨丸の14年の歴史は、混迷の時代に翻弄されながらも次代を担う英傑や鎖国から開国へという新たな時代を創造する英知を生むなど、今日の私たちが学び且つ活かすべきものがあります。

木古内町観光協会並びに咸臨丸とサラキ岬に夢みる会は、地域住民による手作りまちづくり事業の一つとして『咸臨丸とサラキ岬プロジェクト』を提唱し、日本の歴史遺産である咸臨丸の歴史的検証によってその偉業を後世に伝えるとともに、終焉の地である風光明媚なサラキ岬の環境整備等の交流拠点形成を通して、誇りある地域づくりを目的として活動しています。

今年(平成23年)は、その咸臨丸の終焉から140年の節目にあたることから、全国の咸臨丸ゆかりの地から歴史研究やまちづくりに取り組む人々が終焉の地・木古内に集い、栄光と悲劇の足跡を偲ぶ『終焉記念式典』、歴史を学ぶ『記念講演会』、咸臨丸を核としたまちづくりを語る『全国まちづくりサミット』を企画しました。更に記念事業として咸臨丸の14年の歴史と意義を綴る『朗読劇公演』を行います。

地域社会の育成は地域に生活する人々が自らの手で資源を発掘し、磨き、育て、誇りとしていくことが肝要です。本事業は、咸臨丸という地域の歴史資源を通して他の地域の人々と交流し、一層人的且つ文化的付加価値をつけることによって、自らの地域に対する人々のまちづくりの意識(誇りと自信)を高め、地域の活性化に大きな効果をもたらします。

こうした趣旨及び目的のもとに、私たちは、咸臨丸の歴史性を高めて広く宣布するとともに誇り得る地域づくりのために本事業に取り組みます。

- 2) 期日 平成23年9月24日(土)～25日(日)
- 3) 会場 サラキ岬・木古内町中央公民館・石川屋
- 4) 主催 木古内町観光協会・咸臨丸とサラキ岬に夢みる会
- 5) 主管 咸臨丸終焉140年まちづくり事業実行委員会
- 6) 後援 木古内町・木古内商工会・
みなみ北海道観光推進連盟・9町観光連盟・
どうなん追分シーニックバイウェイ運営代表者会議・
北海道新聞木古内支局・函館新聞社・NHK函館放送局(予定)

- 7)対象 オランダ大使館
渡島総合振興局・函館開発建設部・JR北海道・
シーニックバイウェイ関係市町村、商工会、観光協会
咸臨丸関連市町村及び観光協会・咸臨丸子孫の会
太陽北海道地域づくり財団・ライオンズクラブ
渡島管内及び函館市観光関係団体及び歴史研究団体
町内外の一般

8)日程・内容

9月24日(土)

- 12:30 受付
13:00 咸臨丸終焉140周年記念式典『咸臨丸フォーエバー』(サラキ岬)
14:00 終了・移動(バス)
15:00 記念講演会(木古内町中央公民館)
 テーマ 咸臨丸と海
 講師 ノイフィクション作家 合田一道 氏
 テーマ 咸臨丸と勝海舟
 講師 咸臨丸子孫の会(勝海舟玄孫) 高山みな子 氏
16:15 全国咸臨丸まちづくりサミット2011 in 木古内(中央公民館)
 内容 各地域の咸臨丸など歴史文化を活用したまちづくりについて
 出席者 座長(1) 北海道新聞編集委員 久田徳二 氏
 パネラー 咸臨丸に関係する各地域や団体の方々(各2名)
 (塩飽諸島・横須賀・白石・白石区・子孫の会・木古内他)
 アドバイザー オランダ大使館 バス ヴァルクス 氏
17:45 まちづくり共同宣言 サミットの協議内容を総括して発表(木古内より)
18:00 閉会・移動(バス)
18:30 交流懇親会(石川屋) 参加費(5,000円)

9月25日(日)

- 12:00 受付・開場
13:30 開会
13:35 咸臨丸歴史講話 咸臨丸子孫の会 小杉伸一 氏
13:10 朗読劇『永久に、咸臨丸』公演
 脚本 ノンフィクション作家 合田一道 氏
 スタッフ・キャスト 地域住民・木古内中学校(吹奏楽)
14:20 閉会

関連事業

- 1) 『咸臨丸と福沢諭吉』展
 期間 9月16日～30日 会場 木古内町中央公民館
 内容 慶應大学所蔵史料パネルの展示
- 2) 咸臨丸140周年記念記録集の製作
 内容 木古内の「咸臨丸とサラキ岬プロジェクト」の活動の経過記録
 及び終焉140年事業の全ての経過記録を冊子にまとめる。
 形態 A4判 500部
 期日 事業終了後に準備開始、平成23年12月発刊
- 3) 塚本謙蔵氏著作の『咸臨丸最後の乗船者』の改訂発行
 形態 単行本 500部 販売 定価 2,000円